

一般財団法人天涯文化財団
2022年度(第5期)事業計画書
自 2022年11月1日から 至 2023年10月31日

1. 事業実施の方針

財団設立より3年、盛田昭夫塾開館より2年が経過しました。感染症対策に努めながらの運営となっておりますが概ね計画通りの事業を実施をすることができ塾では約3,000人の方々にご来館いただいています。特に前4期は盛田昭夫生誕100周年事業の実施、Akio Morita Club(AMC)プロジェクトの立ち上げなど事業基盤の確立ができた期となりました。また盛田昭夫が愛知県名誉県民として顕彰されました。今期についてはこの3年の実績をベースにこれら事業の発展を目指します。塾・資料館の定期的な展示リニューアル、新たに取り組む音楽イベントの開催などの事業を通じて塾・資料館来館者の増加を図り学術、文化および社会教育向上発展に努めて参ります。皆様のご協力ご支援何卒よろしくお願い致します。

■今年度重点施策

1. 鈴浜資料館の整備及び古文書等の研究促進と成果発表の実施
(新倉調査品の展示・資料調査研究発表会の実施・溝口幹没後90年に関する資料展示)
2. 盛田昭夫塾運営、イベント企画・展示の充実、集客の促進
(盛田本家で使われていたピアノ修復・音楽イベントの開催・母收子没後35年に関する資料展示)
3. Akio Morita Club(AMC)プロジェクトの推進
(盛田昭夫から多大な影響を受けた者たちの生の声を集めた映像ライブラリー
昭夫が遺した経営哲学と人間性を浮き彫りにします。)

2. 事業の実施に関する事項

- (1) 知多半島及び盛田家に由来する古文書、典籍等の研究、研究成果の公開
 - ・盛田家に残された近世初期からの古文書、典籍等を分類・整理し目録を作成する。
(日本福祉大学知多半島総合研究所との協業により実施)
 - ・鈴浜資料館にて古文書、典籍等及びその成果を一般公開する。
(常設展示に加えテーマごとの企画展示を随時開催、年1回愛知県内にて発表会を実施)
 - ・インターネット、SNSを活用し研究成果を世界に発信する。
(国際空港隣接の常滑が海外からの文化・民族研究者が集まる場になることを目的とする)
- (2) 盛田昭夫顕彰事業
 - ・盛田昭夫塾を開館し、盛田昭夫に関する資料の収集、研究を行い、その成果を一般公開する。
 - ・盛田昭夫の残した文書、映像、品々、盛田昭夫に影響を及ぼした人々に関連するセミナー及びワークショップを行う。

(盛田家15代当主に生まれながらソニー創業者となった盛田昭夫の生き様に触れられる「盛田昭夫塾」を開館。見るだけでなく「学べる場所」として未来人のパワースポットとなることを目指す)